生活

seikatsunews@asahi.com

初対面でも…わが家でつながろう

新井洋平さん、直子さん夫妻の自宅リビングが「905カフェ」。どんなイベントにでもなじむように、床も壁も白色にリフォームした＝大阪市淀川区、新井さん提供

自宅や事務所といった私的な空間の一部を、地域や同好の士の集いの場として開放する「住み開き」が静かに広がっています。日時限定だったり、テーマを設定したイベント型だったり、形はいろいろ。人と人とのつながりが薄れる中、新たな縁づくりをめざす取り組みです。（松尾由紀）

「チヨの部屋」に赤ちゃんからそのおばあちゃんまで多世代が訪れた。「子育て、結婚、おいしいもの。話題は尽きない」と藤井千代江さん（右前）＝大阪市福島区

私的空間を開放、地域・同好集う「住み開き」

「面倒くささもある。それでもみんな、独りぼっちになりたいわけじゃない」

元写真店 交流の場に

木曜日午前10時。阪神電車がすぐそばを駆け抜ける大阪市福島区の下町で、藤井千代江さん(69)が自宅入り口に手書きの紙を張りだした。

〈本日木曜日『住み開き』しています。ご自由にお入りください〉

3階建ての自宅の1階、20畳ほどが住み開きスペース「チヨの部屋」だ。5年前の店じまいまでは夫(75)と営む写真店として使っていた。

60歳で定時制高校に入学し、卒業後もシニア世代の交流団体などで活動していた。だが夫の病気がわかったことから、できるだけ家にいようと決めた。代わりに人に来てもらおうと、「ご自由にお入りください」と書いた紙を昨秋、張りだしてみた。子どもの記念になるアルバムや古いアルバムの整理法を伝授するつもりだった。

「でも、だーれもこなかったのよ」

半年後、大阪市のアーティスト、アサダワタルさん(31)が「住み開き」を提唱していることを知った。「これ、私がやってることと同じやないの」。連絡を取ったのが縁で、アサダさんがホームページで紹介してくれたこともあり、人が集まり始めた。

堺市のヨガ講師、松本典子さん(34)もその一人。「チヨさんは自家発電で人生を楽しめる人。この年齢でも、お金かけなくても、楽しめるんだ、と勇気をもらえる」

開店休業の日もあれば、初対面の4人がお茶を飲みながら世間話をする日もある。

「家におって社会とつながれる。若い友達もできたこんな刺激的なことない」と藤井さん。

人脈 仕事・趣味にも

アサダさんは06年から大阪市のマンションの一室を友人たちと借り、知り合いも誘ってトークイベントを開いていた。プライベートな雰囲気でご飯を食べながら話をすると、打ち解けるのは早い。人脈は広がり、本職である文化関連の企画や音楽活動の新たな仕事にもつながった。

このころ、初対面の人にさえも自宅を開放して交流している人が、ちらほらいることに気づいた。自宅マンションの一室で古本屋を開く人。自宅屋上をカフェにする人。絵本がいっぱいの自宅を週に一度、図書館として開放している人――。

昨夏から、新大阪駅近くの自宅マンションを「905カフェ」と名付け、住み開きしている夫妻もいる。コントラバス奏者の新井洋平さん(32)と学童指導員の直子さん(32)だ。

905はマンションの部屋番号。アフリカの食と音楽を楽しんだり、素焼きの福助人形に絵付けをしたり。ホームページで告知し、参加を募る。「人がわいわい集まる家にしたい」が夫婦共通の思いだ。

来客の前後は掃除が必要だし、「来てもらうからには楽しんで欲しい！」ともてなしの準備も大変だ。「イベントのあとはぐったり。でも、仕事では得られない、人との出会いがうれしい」

住み開きの広がりを、アサダさんはこう解釈する。「お隣が誰かも知らない個人主義の時代。地域とつながるのは面倒くささもある。それでもみんな、独りぼっちになりたいわけじゃない」

最近は「住み開きをしたい」という相談も寄せられるようになった。そんなときには、こうアドバイスする。

「住み開きに決まりはない。いろんな形があっていい。自分の場所なのだから、気持ちいい範囲で、負担にならないように」

遊び研究所職員 よい遊具を提言

テンマークから来日講演

テンマークの遊具メーカー「コンパン」の付属機関「遊び研究所」から、国際マネジャーのシェネッテ・イェスパーセンさん＝写真＝が先月来日、横浜市で講演し、子どもの遊びの大切さを訴えた。

イェスパーセンさんは「子どもの運動能力は、全世界的に、20年前に比べて大きく落ち込んでいる」と指摘。欧州でもテレビの視聴時間が増え、路上で遊ぶ子どもの姿や家族との時間が減ったという。10代の若者の遊び場や居場所が失われた結果、非行が増え、社会問題になっている。

デンマークで子どもの遊び研究は、1990年以降に進んだ。例えば、幼児が同じ場所で別々の遊びをする「並行遊び」。かつて、お互いに関心を示していないととらえられていたが、研究によって、別の遊びをしていても、相互にコミュニケーションをとっていることがわかってきた。

また、子ども同士や親子のかかわりが減った結果、世界各国で、母国語の習得が遅れる傾向があるという。

「子どもの成長には、体の成長と社会性の発達、知能の発達のどれも欠かせない」とイェスパーセンさん。よい遊具の条件として①実際に動かして遊びを広げることができる②親しみやすいテーマを設け、想像力や言葉を発達させる③大人と子ども、子ども同士のコミュニケーションを発達させる④体を使って遊べる、という機能を提案した。

ひととき

■ 手から伝わるぬくもり

広島のいとこが6月に亡くなり、しばらくして、その娘からお便りが届いた。

いとこはがんで長く患っていたが、5月に容体が急変、娘が病室に泊まり込んで看病していた。ものがのどを通らなくなり、プリンばかり食べていたが、しまいには「もう飽きたよ」と言うようになったという。

そんな母と病室で手をつないで寝ました、との一行があった。温かい息づかいを覚え、胸が熱くなった。手をつなぐということは本当に簡単なこと、でも、そのたなごころからどれほど多くの安らぎをいただくことか。

この秋、私は白内障の手術を受けた。術後は片目を包帯で覆い、足元は不安定で心細かった。すると、さっと娘が寄り添ってきて私の手をしっかりと握ってくれた。

手をひいて歩いた幼いころから、ああ何十年ぶりの娘の手のぬくもりだろう。今、再びその手をつなぎ、今度は私がすがって歩を進めている。心の底から幸福感がわいた。このぬくもりを忘れないで生きていきたいと思った。

私より若く75歳で旅立ったいとこもまた、娘の優しい手に心満たされていたことだろう。遠くはるかにご冥福を祈った。

生まれたばかりのひ孫が歩き回るころになったら、今度はその小さな手を握ろうと思う。

（奈良県生駒市 稲田 百合子 主婦 80歳）

料理メモ

鶏肉のきのこ蒸し煮

1人前約270キロカロリー、塩分2.0グラム

【主な材料・4人前】 鶏もも肉2枚(400グラム)、キノコ（エリンギ、マイ

患者を生きる 1456